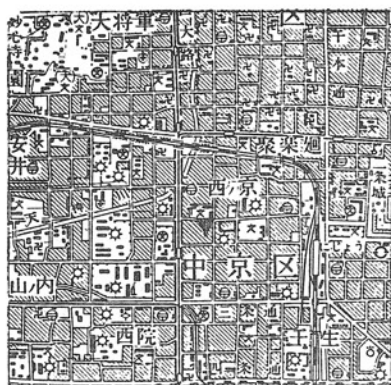


京都・平安京右京三条二坊八町

1. 所在地 京都市中京区西ノ京原町
2. 調査期間 一九八六年(昭61)二月～一九八七年三月
3. 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
4. 調査担当者 木下保明・堀内明博
5. 遺跡の種類 都城跡
6. 遺跡の年代 平安時代
7. 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西北部)

調査地は平安京三条二坊八町の東一～三行北四、五門に位置する。検出した遺構は平安時代前期から中期の貴族の宅地の一部とみられる東広庇付きの二間×四間の掘立柱建物とその南に接してつくられた苑池と思われる石組み遺構、井戸、そして西靱負小路の西側溝と一町の真中やや西よりを南北に流れる幅約六mの川跡などがある。

木簡は川跡の堆積土上層

から出土している。堆積土は大きく二層に分かれ、下層は平安時代中期、上層は平安時代後期である。共伴の遺物の中で注目すべきものとして長さ九八cm、太さ二・五cmのへび形の木製品がある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「南無光明真言」 650×50×60 091

杭状木製品の上端約二・五cmから削り出した長さ二五・五cm、幅四・五cmの平端面に墨書。

(木下保明)

